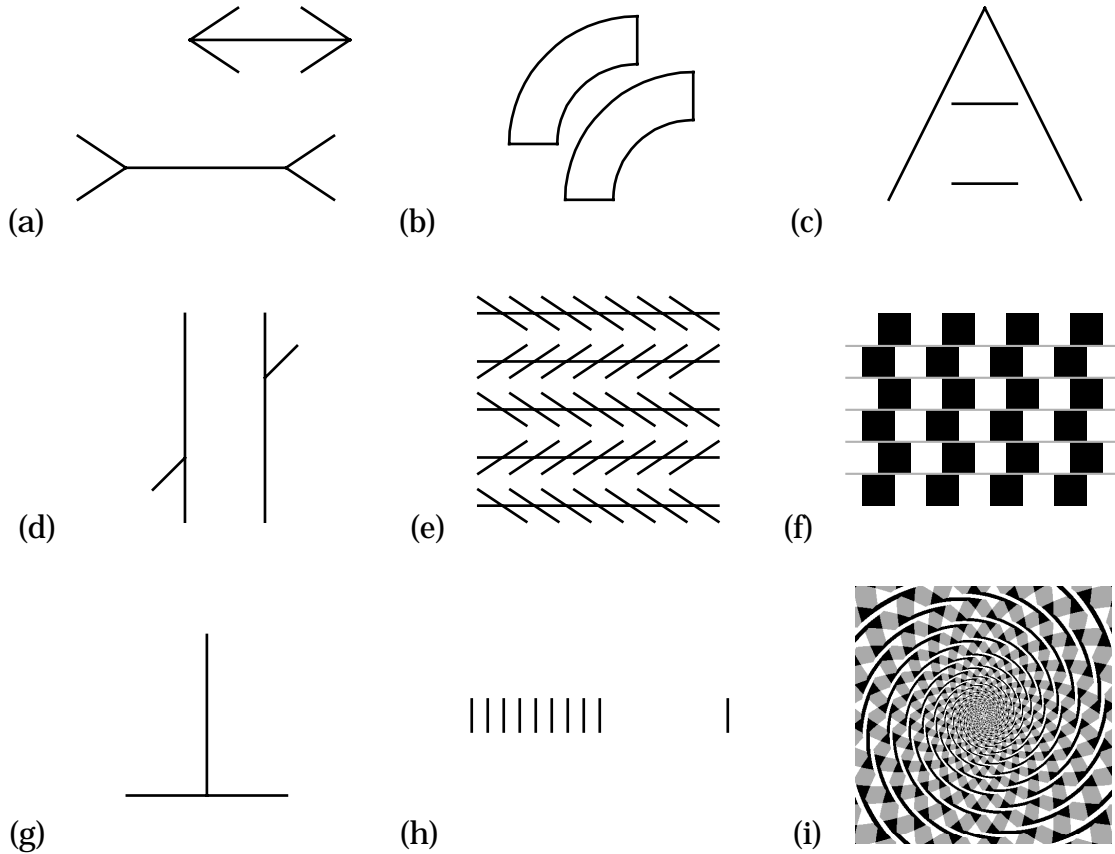


幾何学的錯視の例



(a) ミュラー・リヤー錯視 (Müller-Lyer illusion)・・・同じ長さの線分の両端に矢羽を付けた場合、内向きに付けると線分は短く見え (上図)、外向きに付けると線分は長く見える (下図)。(b) ジャストロー錯視 (Jastrow illusion)・・・同じ大きさの扇子形を図のように並べると、扇の中心の側に置いた図形がより大きく見える。(c) ポンゾ錯視 (Ponzo illusion)・・・同じ長さの2つの平行線分を逆V字形の中に入れて、逆V字形の頂点に近い線分が遠い線分より長く見える。(d) ポグゲンドルフ錯視 (Poggendorff illusion)・・・平行線分に遮断された斜めの線分は実際には一直線上にあるのに、右側の斜線がより上にずれているように見える。(e) ツェルナー錯視 (Zöllner illusion)・・・平行な線分に斜線を交差させると、それらの交差角を過大視する方位に線分が傾いて見える。平行線は上から左・右・左・右・左に傾いて見える。(f) カフェウォール錯視 (Café Wall illusion)・・・上下2列の正方形の列が水平に時計回りにずれると、その間に引かれた線分が時計回りに傾いて見える。反時計回りのずれなら、線分の傾きは反時計回り。平行線は上から右・左・右・左・右に傾いて見える。(g) フィック錯視 (Fick illusion)・・・長さが同じでも、垂直に置かれた線分は水平に置かれた線分よりも長く見える。垂直・水平錯視ともいう。(h) オッペル・クント錯視 (Oppel-Kundt illusion)・・・右から2番目の線分は両端の線分のちょうど中間にあるのだが、右に寄っているように見える。分割距離錯視ともいう。(i) フレーザーの渦巻き錯視 (Fraser's spiral illusion) ... 白黒の紐のようなものは同心円なのであるが、右に回転しながら中心に進む渦巻きに見える。